

廃棄物削減の取組み

当社の廃棄物のリサイクル目標は、2009 年度にはゼロエミッションを達成するとして、リサイクル活動を継続しています。ゼロエミッションの定義としては産業廃棄物重量比で 99%以上とする、としています。残り 1%は最終処分場へ埋め立てされる重量割合を示しますが、本活動においてこれを完全に 0 にすることは多大な費用やCO₂が消費され、環境への影響はかえってマイナスになることが予想されます。従って当社としては、第 1 ステップとして、現実的な取り組みの中で達成に努めています。

事例：廃棄物のリサイクル活動

2008 年度のリサイクル率として、ガスタービン工場が 99%を達成しました。

2005 年に廃棄物削減委員会を立ち上げてから、まず分別による廃棄物の有価物化・高付加価値化に取り組み、環境管理費用との収支を釣り合うまでに改善しました。その後、試行錯誤を繰り返して、何とかリサイクルできる所を見つける事ができ、今回の達成となりました。

ここまでの道のりは、まず協力してくれる産廃処理業者を探す事から始めました。排出量が非常に少ない事から、既存の取引先に拘らず産廃業界の 20 社近くに連絡を取り、その中から前向きに取り組んでくれる所をようやく 1 社見つける事ができました。この会社と協力しながら、無駄な分別をしないで処理できる所を探したのです。昨年度の同社は埋立てゼロを達成しています。更に近隣の業者の設備投資により、リサイクル範囲の拡大とも相まって、ようやくゼロエミを達成できました。

	太田工場	新内工場	GT工場	鑄造工場	ニコ精密
産業廃棄物量 t	1,557	873	148	1,163	431
再資源化量 t	1,433	849	147	969	397
リサイクル率 %	92	97	99	83	92

「全工場」における廃棄物バランス図



廃棄物削減の取組み

事例： 廃棄物運搬委託契約書の確認

ポンプ場やビルの発電機室などに納められたディーゼルエンジンのメンテナンスを行うと産業廃棄物である廃油が発生します。

2009年3月、某ポンプ場のメンテナンス工事で発生した廃油が、契約書どおり運搬の目的の場所に運ばれているか、追跡確認を実施させていただきました。その結果、確実に中間処理施設に届けられていることを確認し、コンプライアンスの確認ができました。運搬業者殿、処分業者殿とは今後とも良い関係でメンテナンスを実施していきたいと考えています。



化学物質管理（P R T R法）

各工場の取扱量 1 t 以上の PRTR 対象物質は下表の 5 物質であり、新潟原動機全体としての 2008 年度の実績は下表の通りです。

物質 番号	C A S 番号	化学物質名	取扱量	大気 排出量	水域 排出量	移動量
227	108-88-3	トルエン	8700	8700	-	-
132	1717-00-6	HCFC-141b (代替フロン)	7800	4900	-	2900
63	1330-20-7	キシレン	5100	5100	-	-
311	-	マンガン	4636	-	-	93
68	-	クロム	3277	-	-	66
40	100-41-4	エチルベンゼン	1100	1100	-	-

(単位は kg)

ニコ精密機器での代替フロン削減活動 2008 年度状況報告

ニコ精密機器では、部品組立前工程の洗浄に HCFC141 (代替フロン) を使用しています。これは P R T R 法に該当する特定化学物質です。そこで、これの削減対策として 2007 年に超音波洗浄器を導入しました。しかし、その後の燃料噴射ポンプ生産量増加のため、超音波洗浄器の効果を出不せないまま、未だ小物部品の組立前脱脂の目的で HCFC141b の使用量を継続しており、減少させることができませんでした。

但し、この代替フロンは約 1 年以内(2010 年)で全廃になる予定の物で、HCFC141b に代わる洗浄液への変更と、超音波洗浄器の増設で対応を図る予定で、代替品の調査を進めています。

